



### 創学舎百人一首大会2018

去る六月二十三日に創学舎で「百人一首大会」を開催いたしました。今大会は昨年度に比べ全体的に出場者のレベルが上がり、白熱した戦いが多く見られました。出場者の皆さん、並びに、見学にいらっしやった保護者の皆様のおかげで非常に大会が盛り上がりました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今大会は、三人一組によるチーム戦で試合を実施しました。今大会の表彰者は次の方々です。個人総合順位は全三試合の取り札の合計枚数によるものです。



【最優秀賞(個人総合第一位)】

《図書カード三千円分贈呈》

A・Mさん(柏市立第三小六年)

【優秀賞(個人総合第二位)】

《図書カード二千円分贈呈》

M・Hさん(我孫子市立第四小五年)

【敢闘賞(個人総合第三位)】

《図書カード千円分贈呈》

O・Mさん(柏市立第三小四年)

【パーフェクト賞(該当者六名)】

《クオカード五百円分贈呈》

\*パーフェクト賞は全三試合を全勝した方が対象です。

S・Kくん(柏市立第三小六年)  
T・Eさん(柏市立第三小六年)

W・Rくん(柏市立第三小六年)  
S・Yさん(我孫子市立第一小四年)  
Y・Yさん(新宿区立落合第五小四年)  
Y・Yさん(新宿区立落合第五小二年)

【ピタリ賞(該当者三名)】

《蛍光ペン五色セット贈呈》

\*主催者による特別賞です。

I・Hさん(我孫子市立湖北台東小五年)  
S・Hくん(松戸市立横須賀小六年)  
N・Tくん(柏市立中原小五年)

表彰された皆さん、誠にありがとうございます。なお、ささやかではございますが、今大会に出場しただけの方々全員に参加賞を授与しております。皆さんにとって良き思い出の品になれば幸いです。

最後になりますが、今大会を通じて、皆さんに「かるた取り」の楽しさを体感していただき、今後の百人一首暗唱に良い影響を及ぼすことを強く願っています。百人一首暗唱を続けることで地頭(じあたま)を鍛え、皆さんがどんどん成長していく姿を創学舎は楽しみにしています。(村田)

### 勉強法を知らない生徒達①

●世の中に、勉強法の本はあふれている。ネットでも、勉強法の洪水。また教える立場にある人は、個人的な経験から色々なアドバイスをします。中には貴重なものもあるだろうし、実際、私も教師のアドバイスのおかげで、ずい分助かったこともある。しかし、同じアドバイスでも、それを理解し実行する人、理解はするが実行しない人、理解できない人と様々である。また、その勉強法やアドバイスが、その生徒が伸びるために必要なものを満たしているかといえば、心もとない。世にあるものほとんど

は部分的にしかすぎないというのが実情である。そういう状況の中で、勉強法とその周辺について筆を執るのは、次のような事情による。

●一つは、六月の保護者面談で出た保護者の方から成績が伸びない悩みを訴えられ、一応のアドバイスはしたものの、時間の制約があつて、全部は伝えられなかったこと。もう一つは、勉強法やその周辺でつまづいている生徒が年々多くなっていること。教える立場にある者として、こうした状況に何とか応えてみたいと思う。(複数の教科に関して述べることはできるが、今日は英語にしぼる。)



●大前提学校の授業で、前を向いて、授業をうけるふりはしているものの、ひたすらその授業が終わるのを待っている生徒がたくさんいます。週に二十時間ずつうける授業があるとして、そのすべてを「終わるのを待つ」生徒も少なくありません。部活に入っているが、ただすわって何も考えることなく見学しているのと同じ。部活であれば筋力も技も落ちるでしょう。授業でそういうことをすれば、脳力も当然落ちるはず。でも教師は気付いていません。「ただ終わるのを待っている」生徒がたくさんいることを。また、そういうことを一日中やっていると、生徒の脳力がどうなるか想像もしていません。では、授業中どうあるべきか? 付度してください。ここには書けません。面談で個別に生徒に伝えます。

●英語は音読が大事まさにその通り。音読なくして英語(外国語)の勉強はありえません。ただ音読についてきちんと説明する人はほとんどいません。目的とやり方については分析することなく「音読」が大歩きしています。

①大半の生徒は、読み方がわからなくても勝手に想像して音読します。例えば「Labour」を「ラバー」と発

音して平気です。「レイバー」と直すのは大変です。授業中に音読を時々やらせますが、「カタカナ読み」のレベルでさえ勝手に読んでいる単語が多く、またそうする生徒の数も多く、困難な作業です。

②生徒は構造や意味がよくわからないままでも平気で音読します。語句も文法も構造も意味も正確に理解した上で一定レベルの英文を音読してこそ効果があるのですが、そうでない生徒が、かなりいます。

③音読の目的を知らない。こんなことさえ、生徒には伝わっていません。言葉は文字と音と意味と使い方がそろって初めて生きて来るもの。音読すること、英語のリズム、意味のまとまりをつかむ力が感覚的に身につきます。音読ができない人は、リスニングもできません。また意味をつかむ力もありません。テストのとき、英文を見たら、その単語の読み方に意識が行って意味をとることはできません。こういうことを考えれば、音読の目的は自ら定まってくるのですが、各自まとめてみてください。因みに、「音読」をひたすらすすめる本があるのですが、それは一定の学力をもった人が分析することなく書いているので劇薬です。

●きちんと読め。しっかり読め。大事な所を読め。こういうアドバイスは英語に限らず、現文や古文、他の科目でもいわれていると思います。しかし、私は苦笑してしまいます。何故か? それは「読む」という行為が分析されることなく、また子供・生徒の「読む」という行為の実態を知らぬまま発せられているからです。一体「読む」はパターンが五つあると考えられますが、受験生を対象にして四つ紹介します。

パターン①英文の字だけを目で追う。パターン②英文を頭の中で何度も音読する。テストになると、パターン①②の生徒も両方とも一生懸命がんば

ります。でも内容は全く頭に入りません。こういう生徒の解答は、易しい知識的なものを除いてほぼ全て「カン」ということになりま

【パターン④】英文の構造を見抜き、意味のかたまりごととに日本語に訳していく。これが受験生として、唯一の望ましいやり方です。この読み方が正しいというように生徒が納得して訓練すれば、楽になります。その上のレベルは偏差値が九十ぐらいになってから考えればよいのです。教える人は、おそらく、四つ目のパターンで英文を読んでいたはず

### ナツイチニロハ。

●この創学舎ニュースがお手元に届く頃、皆さんは人生の試練のひとつ……。そう、夏休みの宿題に真摯に向き合っている時期ではないでしょうか。中には保護者の方のお力を借りている諸君もいるかと思

●夏休みに最後まで残る宿題ランキングを発表すると第三位は作文、第二位は自由研究で、第一位は圧倒的に読書感想文になるということでした。その理由は『読書をする上に作文まで書かなければならぬ』や『文章を書くのが苦手だから』と様々でした。皆さんの中にも同じような悩みを持つ方も多

力になりたいと創学舎の講師陣がおススメの本を厳選させていただきました。お力になれるかわかりませんが、参考にしてみてください。

#### ●『三日間の幸福(小秋穂)』

もし、人生の残りの寿命を買い取ってもらえるとしたら、あなたならばどうしますか？これはひょんなことから主人公クスノキが寿命を買い取ってもらったことから、話は始まります。実は先日この質問を中学三年生の国語の授業で投げかけてみました。生徒たちからの答えは大体二億円から三百億円と様々なものでした。自分の寿命を売ってから監視員ミヤギが見つめる中、クスノキの人生が少しずつ動き出します。彼は一体、どんな残りの人生を歩むのでしょうか。SNSで短編連載されていたものが人気を博して小説化されました。私としては小説のカラーが内容とリンクしていないのが残念ですが、いろいろと考えさせてくれる、是非ともおススメしたい作品です。

#### ●『夏の庭(湯本香樹吏)』

・「人の死」を見てみたいという思いから、少年たちは「もうすぐ死ぬ」と言われている近所のおじいさんの観察を始めますが……。私も中学生の時に実際に読んで涙したお話です。命の大切さや少年たちの成長がとてもわかりやすく描かれています。是非読んでみてください。

(池田)

・少年たちが大人へと変化していく様子を描いた物語。成長期ならではの心の葛藤がリアルに描かれているため、共感できるポイントも多いはず。悩んでいるのは自分だけじゃない。そんな風に思わせてくれる一冊は、大人の階段をのぼる皆さんに、きつと勇気を与えてくれるはず

(高寺)

#### ●『アルジャーノンに花束を(D・キイス)』

・この作品も中学生の頃に読んで感動したお話です。何年前かにドラマにもなりました。知的障害を持つ主人公が「頭が良くなる手術」を受けるという内容です。人間とは何なのか、障害とは何なのか、普通とは何なのか、とても考えさせられるお話です。

(池田)

・内容だけでなく「文字」が訴えかけてきます。残酷か「慈愛」か、様々な感情で読むことができると思います。

(中野)

#### ●『舟を編む(三浦しをん)』

・言葉は海。辞書は言葉の海を渡る舟。言葉の魅力・魔力・奥ゆかしさ、と同時に言葉にできないものどかさ。辞書編纂を通じて描かれる人間ドラマ。辞書を通じて言葉が人と人をつないでいると感じさせてくれるヒューマニズムな一冊です。

(樫村)

・皆さんは普段、国語辞典をどれくらい活用していますか？辞書なんて分厚くて、重くて、つまらない。そんな風に思っているあなた。今すぐにこの本を読むべきです。本作は辞書の編纂に人生をかけた熱い男たちの物語。辞書のすごさ、日本語の素晴らしさを教えてくれる作品になっています。

(高寺)

#### ●『一五歳の日本語上達法(金田一秀穂)』

日頃、私たちが何気なく使っている言葉の役割や、その不思議な力についてわかりやすく・おもしろく書かれています。「言葉」っておもしろい！「国語」を学ぶことって大切なんだ！そう思えてくる一冊です。すでに言葉の魅力にはまってしまっている人はもちろん、国語が苦手、語彙力がない、そう感じている人にもおススメの本です。「一五歳の」となっていますが、小学生でも楽しみながら読める一冊です。

(樫村)

●『何のために(中村文昭)』〜思いの根っこを見つめることから人生は深まる〜

なぜ、人の不安は消えないのでしょうか？

不安は知らないこと・先が見えないこと・自分がどうなるかわからないこと、から生じます。いい学校に入り、いい仕事に就くことで不安は消えるものでしょうか？不安から自らを解放し、ゆとりある心を持つて人生の「何のために」を見つめることができる一冊です。



●『せつない動物図鑑(ブルック・バーカー)』切ないのに笑ってしまいます。動物に対する知識や興味が深まるのと同時に、動物の愛しさに癒されます。

(樫村)

●『コインロッカーベイビーズ(村上龍)』キクとハシとアネモネ。三人の少年少女をめぐって物語は展開し、それは東京の破壊を暗示して終了します。上下巻という長さながら、全編を通じて描写される破壊の衝動とイメージの洪水に圧倒されます。私は高校生の時に読みましたが、言葉が脳を經由せずに、直接肌を突き刺すかのような感覚は、今までにない文学体験でした。是非十代の感性で読んでほしい一冊。特に上巻の幕切れは衝撃的です。

(中野)

●『詩のこころを読む(灰木のり子)』なかなかとつきにくい現代詩、様々な詩人の代表的な詩を、中学生にもわかりやすく説き(解き)ほぐしてくれる。読み進めるうちに、この詩人の他の詩も読んでみようかなという気になってくる。その中から自分の気持ちを代弁してくれる詩人がきつと見つかる。そんな本です。

(関)

(澤田)